

市政ニュース

第3回豊岡・円山川ウォーキング

健康と防災の大切さを再認識

6月7日、第3回豊岡・円山川ウォーキングを開催し、約100人が総合体育館から、円山川堤防周遊コース約5.5キロメートルを歩きました。

この催しは、市民が交流しながら、健康増進を図るだけでなく、平成16年の台風23号の記憶を風化させることなく、防災・減災意識を高めることも目的にして実施しています。

参加者は、途中休憩で河川水位の危険レベルと市の避難情報の話を聞き、ゴール後は健康相談や救急救命講習などを受けました。

また、昼食には、炊き出し体験として、非常食（アルファ化米）と豚汁が振る舞われ、健康と防災の大切さを再認識する機会となりました。



▲楽しく元気に歩く参加者

第5回水害サミットに参加

平成16年台風23号時の支援への恩返し

激甚な水害を経験した全国の市町村長が集まり、教訓や治水への思いを語り合う水害サミットが、平成17年から毎年開催されています。

この会は、水害経験を通じて得た知見や課題を全国発信するとともに、防災・減災につながる意見や提言を関係機関に伝える大切な役割を担っ

ています。本市は、新潟県三条市・見附市、福井県福井市の3市と共にこの会の発起人です。

今年の第5回水害サミットは、6月2日に東京都で開催され、中貝市長が出席し、「人と円山川との共生」と題して、円山川のコウノトリも住める湿地再生を紹介しました。

バイオマスタウン構想 菜の花で彩るバイオマスタウン 小坂小学校児童が「ナタネ実証ほ」で環境学習

市では、バイオマスタウン構想に掲げている「BDF化（菜の花で彩るバイオマスタウン）」の取組みとして、市内の6地域に、それぞれ50アールの栽培実証ほを設置し、栽培技術の確立とデータ収集、併せて、収穫したナタネの利活用についても実証すること

にしています。6月9日、出石町鳥居で収穫を迎えたナタネの刈取り作業が行われました。

同ほ場は、小坂小学校の環境教育の場にもなっており、4月には、児童がナタネの花

の観察や利活用などについて学び、この日もナタネの収穫作業を見学しました。

刈取りで使用したコンバインの燃料には、市内学校給食センターの廃食用油から転換したバイオディーゼル燃料を使用し、バイオマスの利活用と環境に配慮したエネルギーの利用を検証しました。



▲実証ほで観察する小坂小児童

結婚お祝いメッセージ・記念品の贈呈

結婚おめでとう♪おめでとうございます

市では、本市に婚姻届を出された方に対し、6月から、「市長からのお祝いメッセージ」と記念品の「コウノトリポストカード（1セット10種10枚）」を贈呈しています。

なお、今年4月以降に結婚されたカップルにもお祝いを贈りますので、希望の方は申し出ください。



▲結婚お祝いメッセージを受け取った國眼直也さんと糸恵さん（日高町府市場）

主な市政の動き

5月

- 17日・豊岡市新型インフルエンザ警戒本部設置
- 18日・豊岡市新型インフルエンザ対策本部に変更
- 19日・新型インフルエンザ対策のため、小・中学校、幼稚園、保育所を休校・休園、公民館等公共施設、高齢者通所施設等を休業措置

6月

- 1日・平成21年第5回豊岡市議会（定例会）開会
- 中学生の「トライやる・ウィーク」実施（6日）
- 3日・豊岡市新型インフルエンザ警戒本部に変更
- 6日・2008「植村直己冒険賞」特別賞授賞式・記念講演会
- 8日・副市長候補者募集開始

市の新型インフルエンザ対策

発生から安心宣言までの対応報告



▲市のインフルエンザ対策会議

新型インフルエンザの発生に伴い、市では、警戒本部・対策本部を設置し、次の対策を行いました。

また、学校では、新型インフルエンザへの偏見や誹謗中傷に負けないように子どもたちを育成する授業を行い、市も打撃を受けた地域経済の回復策を講じています。

市では、今後強毒性の新型インフルエンザが発生した場合の対応をしっかりと検討し、事前の備えに努めます。

【対策報告】

1. 学校・施設等の措置

- 5月18日～22日
- ・小・中学校、幼稚園・保育所、放課後児童クラブ等休校休園（休園期間中の保育料等減免）
- ・公民館等公共施設休業
- ・高齢者通所施設等休業要請

※休園中も、医療関係従事者、母子家庭・父子家庭の

新型インフルエンザ対策に関する要望書

この度の新型インフルエンザ対策に全力で取り組んでいただいていることに、市民を代表して心からの敬意を表します。
 新型インフルエンザは国民を大きな不安に陥れました。幸い、多くの感染者が軽症のままで回復しており、かつ既存の抗インフルエンザウイルス薬の治療が有効であることなどから、国においては、「季節性インフルエンザと類似している」との見解が示されたところです。
 今なお国や県において行われている遺伝子検査や疫学的調査は、第2波、すなわち将来ウイルスが強毒性を獲得して再来する場合に備えることを主目的とする対策であると理解しています。
 しかしながら、他方で、今なお多くの国民に「新型インフルエンザは恐ろしいものだ」という潜在意識があり、あるいは、恐ろしくなくても、行政から社会活動に関する様々な制約をかけられる厄介なものだという意識があり、季節性インフルエンザに比べて過度に忌み嫌われているという現実があります。
 しかも、人々のそのような無理解や偏見を取り除く努力は、なお不十分であるか功を奏していないと言わざるを得ない状態です。
 患者の発生が報じられた地域では、宿泊のキャンセル等が続出して地域経済が大きな打撃を受け、修学旅行先で児童生徒が「菌を撒き散らしに来たのか」等の暴言を吐かれて傷つき、あるいは患者本人や家族が精神的に追い詰められるなど、遺伝子検査による陽性結果の公表がなされればなされるほど地域社会が傷つけられていくという事態に陥っています。
 そこで、このような事態を解消するため、以下のことについて、早急に、かつ本腰を入れて取り組まれるよう、強く要望します。

- 1 国民に対し、新型インフルエンザの症状など医学所見とその評価について、科学的根拠に基づき、分かりやすい表現で、充分説明すること。
- 2 遺伝子検査や疫学的調査の目的を分かりやすい言葉で充分説明し、理解を得ること。
- 3 疫学的分析結果を早く公表すること。
- 4 患者や家族等を非難中傷することには根拠がなく、卑劣なことであることを強くアピールすること。また、患者や家族等に対し、罪悪感を覚えたりする必要がないことを充分説明すること。
- 5 無理解や偏見に基づく被害が現に発生していることを踏まえ、情報の提供の仕方についても細心の注意を払うこと。
- 6 府県別、地域別の患者数を累計で公表あるいは強調することによって、あたかもその累計数字が現在の患者数であるかのような印象を与えている事態を改善し、現在の罹患者数、現在の病状等を主体とした公表に努めること。
- 7 風評被害からの反転攻勢に対し積極的な支援を行うこと。

平成21年5月29日

様

豊岡市長（市長自署）

中貝市長の徒然日記 ⑳

備えよ

水害に関する講師やパネリストの依頼が続いています。今年、予定のものを入れて、版もしました。国土交通省の既に、札幌、東京、名古屋、尼崎、熊本、倉吉、奈良、半田から招かれています。あれから約5年。死者7人、要望も続いています。

床上浸水5千世帯、災害ゴミ3万6千トン。その数字の背に、市民の途方もない苦しみが続いていました。豊岡は、確かに立ち上がってき

てきました。立ち上がってきしたのは、私たち自身です。しかし、私たちができてきたわけではありません。多くの国々、国や自治体、団体、企業などに助けられ、励まされてここまで来ました。私たちに、被災地責任があるのだと思います。まず、同じ失敗をしないこと。自然の脅威を侮らず、自らの備えをすること。そして、えよ、です。私たちの得た教訓、ノウハウなどを全国の人々に提供し、役立ててもらおうこと。大水害の経験を持つ市町村

